

## タイムテーブル

時 間	内 容
10 : 00	<p>開会挨拶 玉川学園長・玉川大学長 小原 芳明</p>
	<p>挨拶 玉川学園理事（初等中等教育担当）・玉川大学教育学部教授 石橋 哲成</p>
10 : 40 、 12 : 00	<p><b>基調講演</b> 「これまでの日本の教育改革と新学習指導要領について はがれ落ちない学力のために 」 NHK解説委員 早川 信夫 氏</p> <p>&lt; 講師略歴 &gt; NHKに入局後、千葉・函館の各放送局を経て、報道局社会部にて文部省担当になり、その後「週刊こどもニュース」の制作にも携わる。現在 NHK 解説委員・ジャーナリスト。</p> <p>&lt; 概要 &gt; こどもの学力低下ばかり議論されますが、大人だって威張れません。問題は知識のはがれ落ちです。 2004年版科学技術白書によると、科学技術の基礎知識をどれだけ理解しているか、18歳以上を対象にした国際調査で、日本は先進17か国中下から5番目でした。学校に通っていた時代の国際理科調査では世界トップだったのに…。 はがれ落ちない学力をつけるために何が必要なのか、新しい学習指導要領は有効なのか考えたいと思います。</p>
12 : 00 、 13 : 15	<p>昼食・休憩</p>
13 : 15 、 16 : 15	<p><b>分科会</b> 各分科会の概要は次ページ</p>

## 第1分科会

### 「幼保小連携の可能性 遊びの中にある学びとは」

#### KEYWORD

小1ギャップ、新しい学習指導要領・幼稚園教育要領・保育指針

【コーディネーター】玉川大学教育学部 准教授 若月芳浩

【提案者】港北幼稚園・ゆうゆうのもり幼保園 理事長 渡辺英則 氏

【提案者】東京家政大学ナースリールーム 主任保育士 井桁容子 氏

【提案者】玉川学園幼稚部長 櫻井利昭

【助言者】青山学院大学社会情報学部 教授 佐伯胖 氏

#### <概要>

幼稚園教育要領・保育所保育指針・学習指導要領の改訂～実施は、私たち現場の保育者や教師にとって、どのような意識改革が必要になるのでしょうか。今回の分科会では、改訂の内容を踏まえた上で、幼稚園・保育所・小学校、そして新たな認定子ども園の第一線で活躍する先生方をお招きします。各先生方には、遊びの中にはどのような学びがあるのか?という疑問に対して、現場の実践から提案していただきます。更にその提案に対して「学び」に関する研究のエキスパートである、佐伯胖氏に助言及び講演をいただきます。

## 第2分科会

### 「小中一貫教育実践校からの報告と今後の課題」

#### KEYWORD

新学力観・中1ギャップ・規範意識

【コーディネーター】玉川大学教職大学院 教授 小松郁夫

【事例報告】三鷹市立にしみたか学園 前学園長 大嶺せい子 氏

【事例報告】八王子市立七国小学校 校長 吉村潔 氏

【事例報告】玉川学園中学年教育部長 石塚清章

#### <概要>

教育基本法や学校教育法に9年間の義務教育の目的や目標が新設された。小中学校の設置者である教育委員会も、新しい教育行政のあり方を求めて、自己評価が求められている。小中学校を設置する私学でも、その連続性や発展性が重要視されている。学校教育の質の向上を求めて、学校とその設置者に新しい責任が生じている。この分科会では、先進的に小中一貫教育を推進してきた東京都三鷹市や八王子市、品川区などでの実践を手がかりに、さまざまな意義と課題を議論する。

### 第3分科会

#### 「教師力向上講座 - やる気を引き出す魅力ある授業へ - 」

##### KEYWORD

学習する空間づくり・モチベーションアップ・単指示・学力向上

【講師】 授業学研究所 所長 大矢 純 氏 他2名

##### < 概要 >

児童・生徒の将来につながる学力向上のためには、児童・生徒の授業に対する「やる気」が不可欠です。児童・生徒の「やる気」を引き出すことは、ますます教師力の中で重要な要素になってきています。

ここでは生徒・児童のやる気を引き出す「学習する空間づくり」を体感していただき、そのメカニズムを紹介します。さらに、今回は「単指示の徹底」や「授業でのコミュニケーション」に重点を置き、児童・生徒のモチベーションアップを図るための教師の立ち振る舞いもお伝えします。

### 第4分科会

#### 「各教科で求められる言語活動 小中学校の新学習指導要領を踏まえて 」

##### KEYWORD

思考力・判断力・表現力

【コーディネーター】 玉川大学通信教育部 講師 植松雅美

【国語】 玉川大学教職大学院 准教授 井出一雄

【理科】 町田市立第一小学校 校長 田澤清英 氏

【英語】 玉川大学リハビリテーション学部 教授 佐藤久美子

##### < 概要 >

ECDのPIISA型読解力から端を発し、我が国の教育が大きく変わろうとしている。

新学習指導要領では、思考、判断、表現の能力育成が改善の要点とされた。すべての教科において言語活動を重視し、これらの能力育成に努めることが課せられる。言語活動を通し情報収集、課題探求、学習者相互の交流、発表、評価等の充実した活動が重要である。

児童生徒主体の授業をどう創るか、すべての教科での創意・工夫に期待したい。

## 第5分科会

### 「高大接続の今後 大学から見た中等教育機関への要望」

#### KEYWORD

高大接続、高大連携、初年次教育、キャリア教育、学士課程教育、生涯学習

【コーディネーター】玉川大学経営学部教授、

学士課程教育センター 副センター長 菊池重雄

【解説：高大接続の現状】国立教育政策研究所

高等教育研究部総括研究官 川島啓二 氏

【事例報告】京都市立西京高等学校・附属中学校 校長 関目六左衛門 氏

【事例報告】高知大学教育研究部

人文社会科学系人文社会科学部門 教授 上田健作 氏

#### < 概要 >

高等学校教育と大学教育の現場において高大連携の重要性が叫ばれるようになって久しい。近年では、単に大学入学者選抜の問題にとどまらず、高等学校と大学が連携して教育内容や方法等を含めた全体の「接続」を図ることの重要性が広く認識されている。本分科会ではこうした現状を踏まえ、高大「接続」を進展させていくうえで何が問題となるのかを抽出し、その解決に向けて参加者とともに考察していきたい。併せて高大接続テストの計画にも触れ、高等学校教育全体の質保証の問題も視野に入れて議論していきたい。